

飲水思源

いんすいしげん

町長

松岡市郎

山岳史家「清水敏一」と山岳の本

清水敏一さんから一冊の立派な装丁本を頂戴した。題名は『わが山の人生』（大雪山房、2020）であるが、山を愛している清水さんがまとめた自分史とも書かれている。清水さんはせんとぴゅあⅡ大雪山アーカイブスの専門員で、大雪山に関する資料を収集し、分類、展示などの業務を担ってくれている山岳史家で、4年ほど前に東川在の西原義弘さんに誘われて岩見沢から単身移住している。数年前、東川でロケされたベトナム映画『目を閉じれば夏が見える』（2018）にも出演、淡々と役を演じているのには驚いた。80歳半ば超え、令和の仙人、山の生き字引と言える。何冊か本を上梓しているが、実に読みやすく、引き込まれて行く。

『わが山の人生』の書き出しでは「将来の希望もないが、さりとて絶望しているわけでもない。物欲もなければ生き欲もないが、安楽に死にたいという欲はある。（中略）もうひとつ意欲はまだある。ただ集中力、継続力が落ちたので、その分時間がほしいという欲はある」と自分の欲を語っている。

しかし、今回の上梓の本は何と415ページにわたり、記憶と記録により書き上げている。これは忍耐力、継続力、記憶力の賜物で、青年以上のパワーを感じる。登山先で出会った人々の人情や旅館の女将の心尽くし、イノシシの群れとの出会いなどは体験した者にしか分からないものである。勿論、踏破した山の思い出は細かく記載され、頂上に留まるのは長くて5分間程度で、無駄のない時間の使い方が伝わってくる。

また自分史であるから当然に奥様との出会いと別れも淡々と表現している。山で知り合い、超がつく酒豪だったこと、コンサートに頻繁に通ったことが紹介され、本人の意思通り一人で看取った、と結んでいる。

「富士山には月見草が似合う」は太宰治が言ったようであるが、聡明で博識な人とは清水さんのような人だろう。ユーモアのある文は人を明るくしてくる。是非とも清水さんの本を読んでほしい。

銀花の蔵（一般書） 遠田潤子／著 新潮社／刊



大阪万博に沸く日本。絵描きの父と料理上手の母と暮らしていた銀花は、父親の実家に一家で移り住むことに。その家には、座敷童が出るという言い伝えの残る由緒ある醤油蔵があった。そして蔵の下から古い木箱に入った子供の遺骨が発見される。家族を襲う数々の苦難と一族の秘められた過去に対峙しながら、昭和から平成へと少女は自分の道を歩き出す。

ルドルフとイッパイアッテナ（DVD） 販売元：バップ



大好きなりえちゃんから愛情をたっぷり受けて暮らしていた黒猫のルドルフは、長距離トラックの荷台に迷い込み、気がつくと大都会で迷子に。そこで出会ったのは、人間の文字を理解するボス猫のイッパイアッテナ。自分が住んでいた場所がわからないルドルフは、イッパイアッテナから故郷にはもう帰れないと告げられ、ノラ猫ライフをはじめのだった…。(89分)

貸し出し図書 ビデオ紹介

せんとぴゅあⅡ ほんの森

【貸し出し】
図書、紙芝居、雑誌は一人合計20点まで(15日間)
DVDは一人2本まで(8日間)

★本、DVDの蔵書リクエストもお受けしています

すいかのプール（絵本） アンニョン・タル／作 岩波書店／刊



真夏のお日さまの下、すっかり熟した大きなすいかがパカッと割れたら、すいかのプールのプール開きです。さあ、子どもも大人も浮き輪を持って出かけましょう。葉っぱのジャンプ台から飛びこんだり、ぶあつい皮ですべり台をつくらしたり、すいかのジュースをパシャパシャさせたり…。子どもの楽しい空想をいきいきと描く韓国の絵本。